

## ◆仁徳天皇陵古墳石室副葬品を新発見・初公開◆ 企画展「堺のたからもん－金で魅せる・黒を愛でる－」を開催します

堺市博物館では、今年度は色をテーマにした企画展を開催しており、前回は大阪・関西万博開催を記念してイメージカラーでもある赤と青の2色に注目した企画展を開催しました。今回はその第二弾として「堺のたからもん－金で魅せる・黒を愛でる－」を開催します。本展では、華やかな金色と深みのある黒色をまとう品々によって彩られてきた堺の歴史・文化を紹介し、仁徳天皇陵古墳石室の副葬品と考えられる金銅装刀子等を展示します。同古墳に関する副葬品が展示されるのは全国で初めてのことであり、これをテーマにした講演会を開催します。

### 1 企画展名

堺のたからもん－金で魅せる・黒を愛でる－

### 2 会期等

令和7年7月19日（土）～9月7日（日）

開館時間：午前9時30分～午後5時15分（入館は午後4時30分まで）

休館日：月曜日（7月21日、8月11日（いずれも月・祝）は開館）

### 3 会場

堺市博物館展示場（堺市堺区百舌鳥夕雲町2丁 大仙公園内）

交通：JR阪和線「百舌鳥」駅下車 西へ約500m

南海バス「堺市博物館前」停留所下車 南へ約280m

### 4 観覧料

一般 200円（160円） / 高校・大学生 100円（70円） / 小・中学生 50円（30円）

※（ ）内は20人以上の団体料金

※堺市在住・在学の小・中学生は無料。堺市在住の65歳以上の方、障害のある方は無料（要証明書）

### 5 展示構成・主な展示資料（詳細は別紙をご覧ください）

#### 第1章 金で魅せる

古くから利用されてきた金属である「金」は多くの人を魅了してきました。堺に關係する「金」を利用した作品を紹介します。

主な展示資料	制作時期	所蔵者
仁徳天皇陵古墳出土金銅装刀子・甲冑片	古墳時代	國學院大學博物館蔵
草花蒔絵螺鈿洋櫃	安土桃山時代	当館蔵

## 第2章 黒を愛てる

水墨画や書作品に代表されるように「黒」は濃淡・色調などで多彩な表現が可能な色です。また、墨以外にも黒漆や黒釉など様々な素材で表現される色もあります。本章では、「黒」を用いた堺ゆかりの作品を紹介します。

主な展示資料	制作時期	所蔵者
瀑布図（貫名菘翁筆）	江戸時代	当館蔵
山水図屏風（日根対山筆）	明治時代	当館蔵

## 第3章 黒と金の共演

黒色と金色は双方を引き立たせる色でもあります。黒色と金色が調和し、魅力を高めている作品を紹介します。

主な展示資料	制作時期	所蔵者
桜菊桐蒔絵大棗	安土桃山時代	当館蔵

## 6 関連行事

<事前申込必要・応募者多数の場合は抽選>

○講演会

・仁徳天皇陵古墳の新知見 1

日時	令和7年7月27日（日）午後2時～午後4時15分
会場	堺市博物館ホール
定員	80名
内容	①テーマ「好古家 柏木賀一郎について」 講師：内川隆志氏（國學院大學博物館副館長・文学部教授） ②テーマ「明治5年の石室開口について」 講師：徳田誠志氏（関西大学客員教授）

・仁徳天皇陵古墳の新知見 2

日時	令和7年8月23日（土）午後2時～午後4時30分
会場	堺市博物館ホール
定員	80名
内容	①テーマ「仁徳天皇陵古墳出土資料の考古学的検討」 講師：深澤太郎氏（國學院大學博物館教授） ②テーマ「仁徳天皇陵古墳出土資料の科学的検討」 講師：渡邊緩子氏（日鉄テクノロジー株式会社文化財調査・研究室室長）

	③テーマ「仁徳天皇陵古墳前方部の石棺」 講師：十河良和（堺市博物館学芸課参事）
--	--

<事前申込必要・先着順>

○ワークショップ① 「本物の金箔を貼って古墳柄インテリアプレートを作ろう」

日時	令和7年7月20日（日）午後1時～午後2時30分 午後3時～午後4時30分
会場	堺市博物館ホール
定員	各回10名
対象	小学生以上（小学生は保護者同伴）
参加費	2,300円
講師	黒沢哲也氏（伝統工芸士・有限会社黒澤商店）

○ワークショップ② 「金継ぎでアクセサリーを作ろう」

日時	令和7年8月17日（日）午後1時～午後2時30分 午後3時～午後4時30分
会場	堺市博物館ホール
定員	各回10名
対象	小学生以上（小学生は保護者同伴）
参加費	3,000円
講師	高城ちひろ氏（金継ぎラウンジ）

○ワークショップ③ 「古代の文字を書いてみよう～私だけのウチワ作り～」

日時	令和7年8月30日（土）午後1時～午後2時30分 午後3時～午後4時30分
会場	堺市博物館ホール
定員	各回15名
対象	小学生以上（小学生は保護者同伴）
講師	根來孝明（堺市博物館学芸員）

申込方法、申込期間などの詳細は以下の堺市博物館のホームページをご覧ください。

URL:[https://www.city.sakai.lg.jp/kanko/hakubutsukan/exhibition/kikaku\\_tokugetsu/kurokin.html](https://www.city.sakai.lg.jp/kanko/hakubutsukan/exhibition/kikaku_tokugetsu/kurokin.html)

※講演会及びワークショップに参加される方は、展示場内への入場には別途観覧料が必要です。

<事前申込不要・先着順>

○博物館を楽しむツアー（展示解説）

日時	令和7年8月10日（日）午後2時～午後2時30分 令和7年9月6日（土）午後2時～午後2時30分
会場	堺市博物館展示場
定員	各回20名程度
参加費	観覧料
講師	当館学芸員

○ベビーデー

日時	令和7年8月26日（火）午前10時～正午
会場	堺市博物館展示場
対象	未就学児と保護者
定員	20組程度
参加費	観覧料
内容	展示場で作品を見ながら気軽にお話する場を設けます。未就学の参加者には、博物館デビューカードをプレゼントします。

問い合わせ先	担当課：文化観光局 歴史遺産活用部 博物館 学芸課 電話：072-245-6201 ファックス：072-245-6263
--------	--

別紙

企画展「堺のたからもん－金で魅せる・黒を愛でる－」主な展示品

**仁徳天皇陵古墳 金銅装刀子（こんどうそう とうす）**

古墳時代 國學院大學博物館蔵



刀子とは、小型で刃渡りの短いナイフのことです。近年、國學院大學により、仁徳天皇陵古墳の副葬品と伝わる刀子などの資料が発見されました。仁徳天皇陵古墳では、明治5（1872）年に前方部斜面で石室と石棺が見つかっており、絵図が残されています。今回発見された資料は、その石室・石棺に関連するものと考えられます。この刀子は、金メッキをした銅板で装飾された鞘に鉄製の刃が収められたものです。

**草花蒔繪螺鈿洋櫃（くさばな まきえ らでん ようびつ）**

安土桃山時代 当館蔵



洋櫃とは、長方形の箱に蒲鉾形の蓋が付き、それを蝶番で留めた器物のことです。安土桃山～江戸時代にかけて、輸出漆器の花形商品でした。本作は、四周を南蛮唐草で囲み、螺鈿で画面を区切って小画面とし、それぞれに草花を描いています。

**瀑布図** (ばくふづ)

貫名菘翁 (ぬきな すうおう) 筆 江戸時代



細い川が合流して一本の流れになる様子が描かれ、集まつた水が滝となって一気に流れ落ちる迫力が伝わってきます。

中国・唐で活躍した詩人・宋之門（そうしもん）が、当時の権力者である則天武后の命によって作った詩のなかに「遠壑始飛百丈泉」（えんえいしひひゃくじょうせん）という言葉が使われています。この作品に添えられた言葉は上記の漢詩から引用したと考えられます。

**桜菊桐蒔繪大棗** (さくら きくきり まきえ おおなつめ)

安土桃山時代 当館蔵



雷のようなラインで文様を区切り、片方は下地を黒漆で、片方は下地を金で表現しています。金の部分は「金梨地」と呼ばれる技法で、粒の荒い金粉で梨のようにざらざらさせます。黒漆には枝垂れ桜を描き、金梨地のほうには菊・桐紋を描いています。